

令和 6 年度
マリンレジャー事故防止調査対策事業委託業務
報 告 書

令和 7 年 3 月
沖 縄 県

(事業受託者：オリエンタルコンサルタンツ・沖縄ライフセービング協会共同企業体)

— 目 次 —

1. 業務概要	4
（1）業務の目的	4
（2）業務の実施手順およびスケジュール	4
（3）体制	5
（4）沖縄における観光客の過去の水難事故の傾向と本業務の対応	6
2. 海的安全啓発ツールの発信強化	10
（1）実施概要	10
（2）実施結果	40
3. 海的安全啓発ツールの改善	49
（1）「おきなわマリンセーフティポータル」の改善	49
（2）「おきなわマリンセーフティマップ」の改善	62
（3）レンタカー等を活用した危険情報のプッシュ機能の追加の検討	67
4. ビーチ等での安全講習会の実施	68
（1）観光客を対象とした海的安全講習会の実施	68
（2）ハワイ等の諸外国からライフセービングのプロライフガードの招聘による人材育成	96
（3）ホテル、マリンレジャー事業者等を対象とした水難事故発生時の初動対応等の講習会	143
5. マリンレジャー事業者及び海岸管理者等との「水難事故防止」に関する意見交換会の開催	146
（1）マリンレジャー事業者との意見交換会	147
（2）自治体・海岸管理者等との意見交換会	163
6. 水難事故パターンの検証	176
（1）水難事故統計データの整理	177
（2）海域調査の実施	203
7. まとめと今後の課題	205
（1）本業務の事業効果	205
（2）令和6年度の観光客の水難事故の動向	207
（3）今後の方針	208

1. 業務概要

(1) 業務の目的

本業務では、構築したポータルサイト「おきなわマリンセーフティ」の利活用を促進するため、「ホテル」、「レンタカー」、「空港」など、観光客が利用しやすい場所で周知啓発するとともに、ライフセーバー等を活用した海の安全講習会を通じて水難事故防止へと繋げることを目的として実施した。

また、マリンレジャー事業者に対して、最新の事故情報及びヒヤリハットの事例等を提供し、水難事故防止と安全対策の意識啓発の向上を図った。

(2) 業務の実施手順およびスケジュール

本県における水難事故は海・マリンレジャーの体験者が増加する夏（6月～9月）に集中する傾向にあるため、周知・広報ならびに海の安全講習会等の取組は同期間を重点期間として位置づけ実施した。

以下に実施スケジュールを示す。

表 1 実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			周知啓発の強化期間				工期：令和6年4月1日～令和7年3月31日					
1. 海の安全啓発ツールの発信強化												
①旅マエでの周知啓発												
②旅ナカでの周知啓発												
③意識啓発促進のための仕掛けづくり		企画・制作			周知広報							
④バブリシティの取組												
⑤取組効果のモニタリング												
2. 海の安全啓発ツールの改善												
①「おきなわマリンセーフティマップ」の改善												
・運用及び情報更新												
・多言語対応												
・天候等を踏まえたアラートの発信		企画・条件検討						開発				
②「おきなわマリンセーフティポータル」の改善												
・デザイン等の改善												
・コンテンツの拡充												
③レンタカー等を活用した危険情報のプッシュ機能の追加												
3. 水難事故パターンの検証												
①水難事故統計データの分析とターゲットの見える化												
②水難事故データに基づくパターン分析												
③海域調査の実施												
4. ビーチ等での安全講習会の実施												
①観光ハイシーズン（6月～9月）の海の安全講習会の実施												
②ハワイ等からのプロライフセービング招へいによる人材育成												
③ホテル、マリンレジャー事業者等への初動対応等の講習会												
④過年のライフセーバー等を活用した海の安全講習会												
5. 「水難事故防止」に関する意見交換会の開催												
6. 成果とりまとめ												
打ち合わせ等	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(3) 体制

本業務は株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支社および一般社団法人沖縄ライフセービング協会の2社からなるオリエンタルコンサルタンツ・沖縄ライフセービング協会共同企業体にて実施した。

株式会社オリエンタルコンサルタンツ沖縄支社では、主に「海の安全啓発ツールの発信強化」「海の安全啓発ツールの改善」「水難事故パターンの検証」「水難事故防止に関する意見交換会の開催」「マリンレジャー事業者向けの海の安全対策セミナーの実施」を担当した。

一般社団法人沖縄ライフセービング協会では、主に「ビーチ等での安全講習会の実施」および一部の「海の安全啓発ツールの発信強化」を担当した。

また、海の事故防止に関わる主体である、海上保安庁第十一管区海上保安部、沖縄県警察、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、各マリンレジャー関係団体と連携し実施した。

(4) 沖縄における観光客の過去の水難事故の傾向と本業務の対応

本業務は沖縄における観光客の水難事故分析の結果を踏まえながら実施時期やターゲット、発信内容や巡回箇所を選定を行ってきた。

本業務にて分析した平成 30 年から令和 5 年までの水難事故の傾向を以下に示す。本分析の最終的なとりまとめは 11 月開催の勉強会にて取りまとめられたが、部分的な分析は適宜実施し、取組へ反映してきているため、本報告書の基礎資料として確認いただきたい。

次頁以降の平成 30 年から令和 5 年までの分析結果により、本県における観光客の水難事故の特徴の概要は以下の通りであった。

また、以降において、本報告書にて「水難事故」と記載のある場合は特に記載のない限り「沖縄県における観光客の水難事故」を示す。

①過去 6 年の動向 令和 5 年の観光客入込客数が令和元年を超えていないなか、令和 5 年の水難事故は過去最高を記録した。

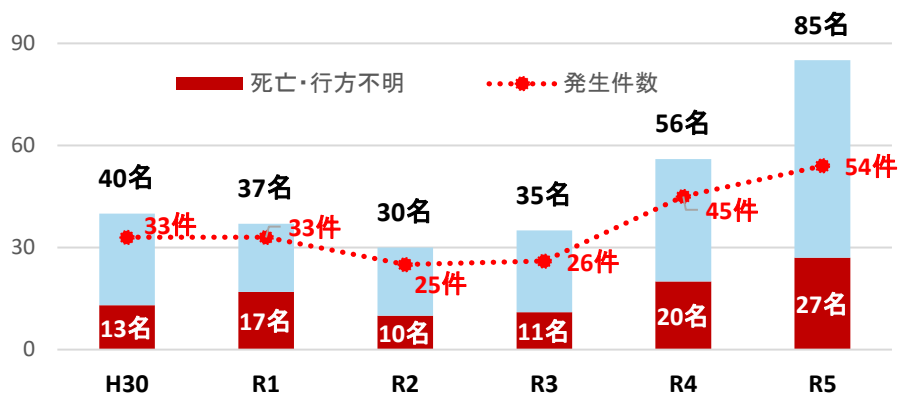


図 1 水難事故の罹災者数の推移

②発生時期 水難事故は通年で発生しているが、8～9 月をピークとして発生している。

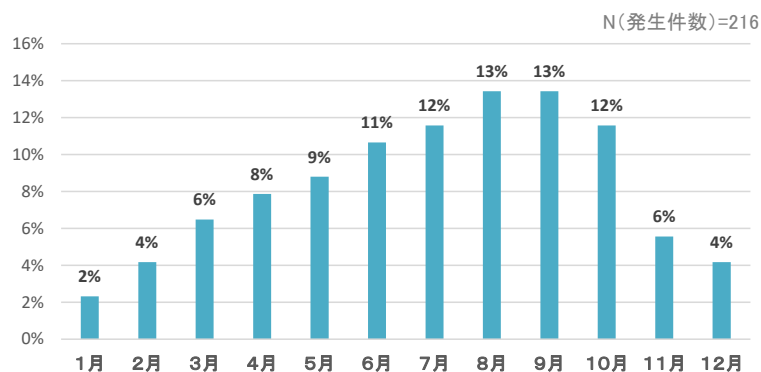


図 2 水難事故の月別の発生時期

③ガイドの有無 観光客の水難事故はガイドを伴う事故とガイドを伴わない事故はおよそ半々である。

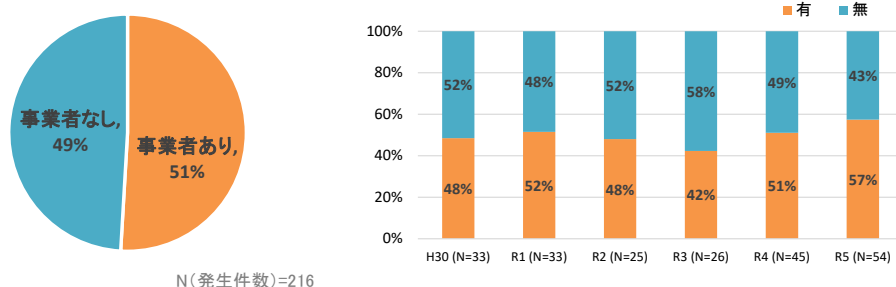


図 3 マリンレジャー事業者の有無

④負傷程度 水難事故は罹災者数の約 3 割が死亡・行方不明につながる。

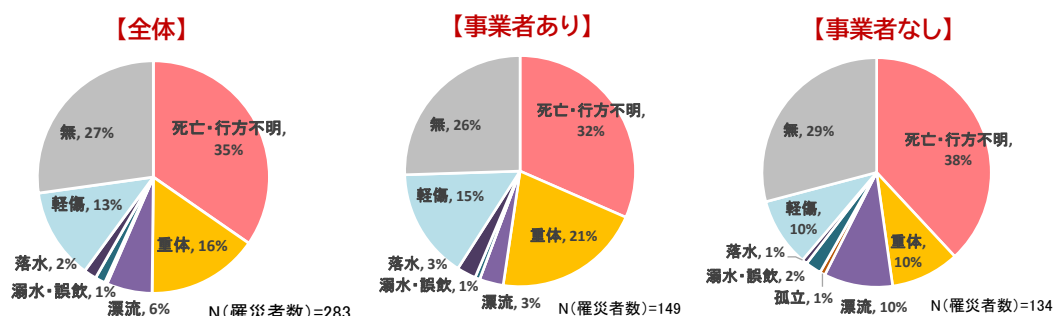


図 4 水難事故の負傷程度

⑤アクティビティ ガイドを伴い事故はスノーケリング、遊泳が多く、ガイドを伴う事故はダイビング、スノーケリングが多い。

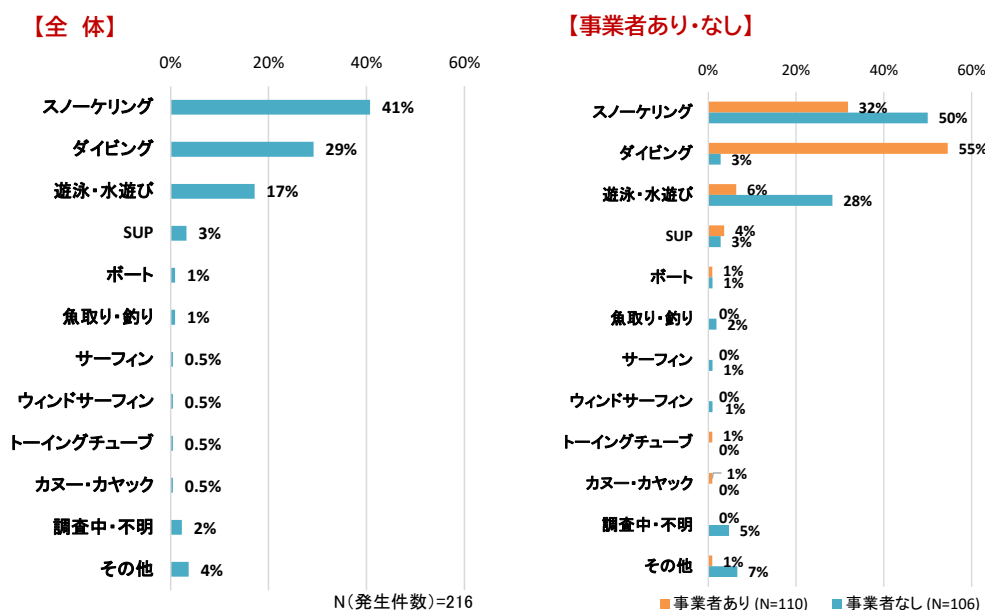


図 5 アクティビティの内訳

⑥年代 死亡・行方不明のうち 50 代以上が占める割合が約 7 割と高く、高齢であるほど死亡リスクが高まる。

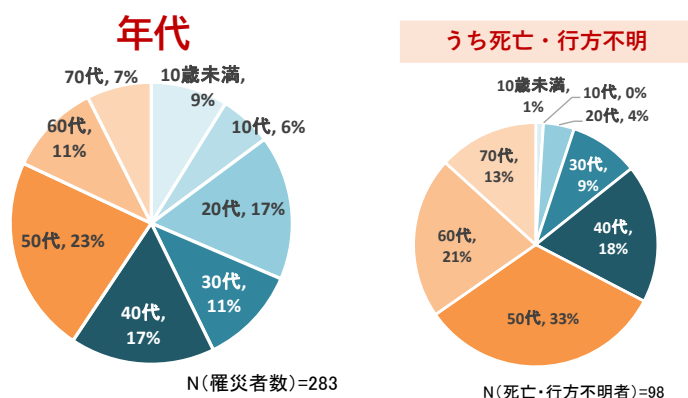


図 6 水難事故の年代別構成（左）、うち死亡・行方不明の年代別構成（右）

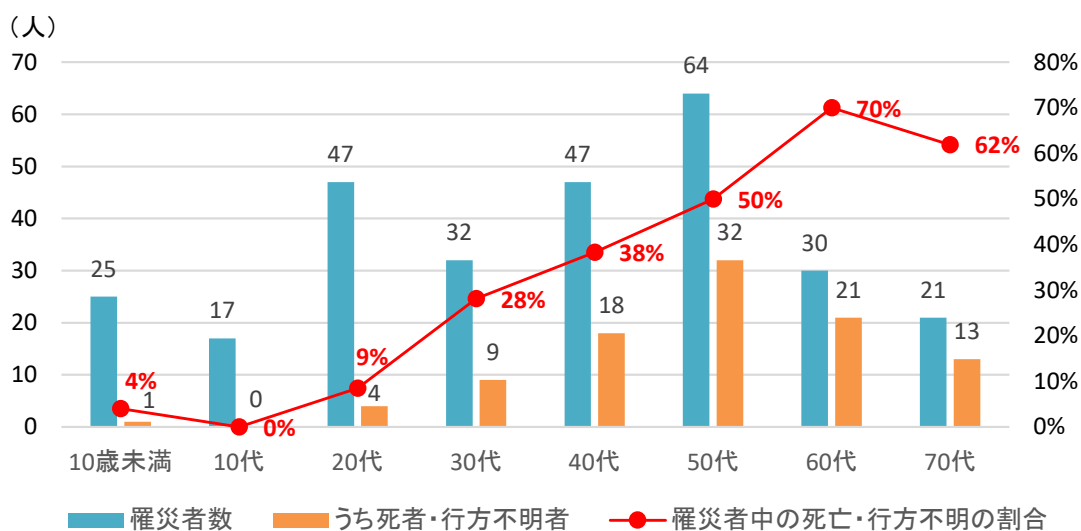


図 7 各年代の罹災者数中の死亡割合

⑦浮力体の有無 ガイドを伴わない水難事故のうち約 8 割がライフジャケット等の浮力体を身に着けていない。

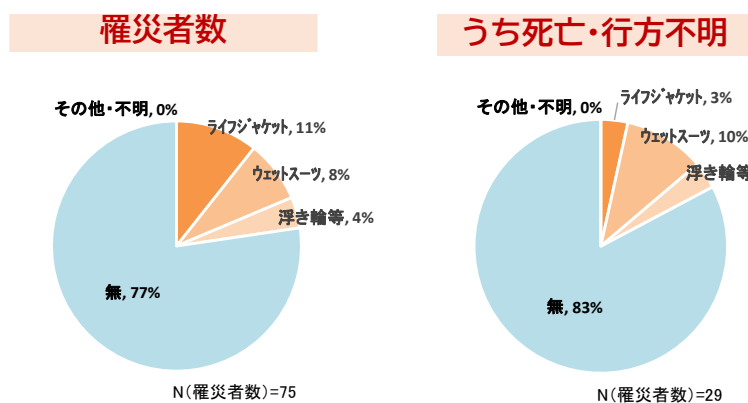


図 8 ガイドを伴わない罹災者の浮力体の有無

⑧自然海岸での発生状況 ガイドを伴わない水難事故のうち約 8 割が監視員等のいない自然海岸にて発生したと推察される。

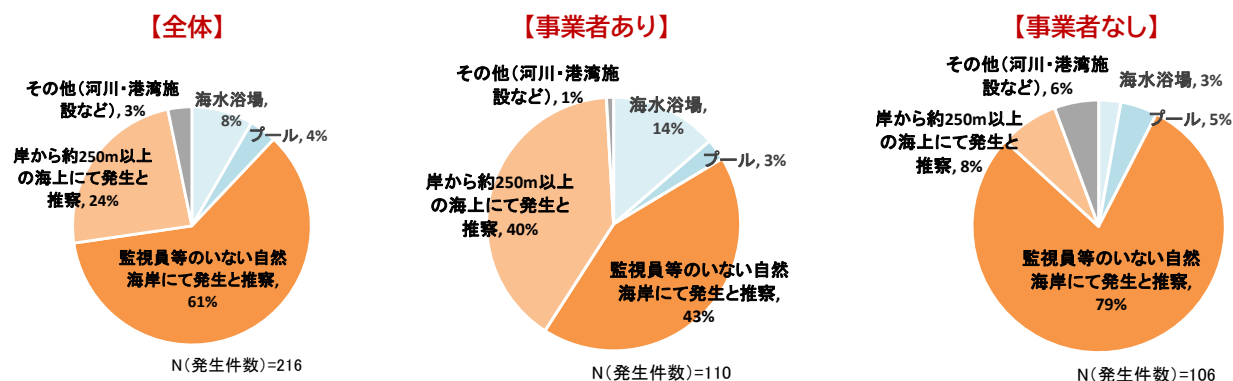


図 9 事故が発生したと推察される場所

⑨発生場所 発生件数および罹災者数では宮古島市が最も多く、次いで石垣市、恩納村が多い。

表 2 罹災者数の自治体別構成比

no	市町村	発生件数 (N=216)	罹災者数 (N=283)	死亡・行方不明者数 (N=98)
1	宮古島市	24%	30%	17%
2	石垣市	18%	15%	19%
3	恩納村	9%	9%	11%
4	渡嘉敷村	8%	6%	5%
5	竹富町	8%	8%	9%
6	座間味村	7%	6%	12%
7	本部町	6%	6%	6%
8	糸満市	5%	6%	5%
9	うるま市	2%	2%	2%
10	北谷町	2%	1%	0%
11	名護市	1%	1%	0%
12	南城市	1%	1%	1%
13	今帰仁村	1%	2%	2%
14	那覇市	1%	1%	1%
15	国頭村	1%	1%	1%
16	久米島町	1%	1%	0%
17	宜野湾市	0.5%	0.4%	1.0%
18	金武町	0.5%	0.4%	1.0%
19	読谷村	0.5%	0.4%	0.0%
20	粟国村	0.5%	0.4%	1.0%
21	渡名喜村	0.5%	0.4%	0.0%
22	南大東村	0.5%	0.7%	2.0%
23	八重瀬町	0.5%	0.4%	1.0%
24	与那国町	0.5%	0.4%	1.0%

2. 海の安全啓発ツールの発信強化

(1) 実施概要

海の安全啓発ツール「おきなわマリンセーフティ」の発信強化を行うとともに、観光客のタッチポイントである「ホテル」、「レンタカー」、「空港」等で周知啓発を行った。

観光客等の水難事故は自然海岸での発生が多発していることから、その導線を勘案した情報発信を行った。また、観光客等の旅前に情報を確認できるよう WEB のキーワード広告（リスティング広告）や SNS 等を通じて情報発信を行った。

ア. 主な周知啓発のターゲット

本業務は沖縄県における観光客の水難事故（以下、水難事故）の未然防止を目的としている。

周知啓発にあたっては、幅広く沖縄の海を楽しむ予定の観光客を対象として作成・周知を実施するとともに属性を絞ってプロモーションを展開することのできる WEB・SNS 広告においては事故分析の結果を踏まえて実施した。

<基本的な周知啓発のターゲット>

■ 沖縄に訪れ、海・マリンレジャーを楽しむ予定の国内外の観光客

表 3 抽出可能な場合に設定した周知広報のターゲット：過去の水難事故分析での特徴より

水難事故の特徴	ターゲット
・ ガイドを伴わない水難事故のうち 89%が自然海岸にて発生	・ ガイドの手配を予定していない自然海岸等に関心のある観光客
・ ガイドを伴わない水難事故のうちライフジャケットの未着用が 77%、うち死亡・行方不明における未着用率は 83%	・ ガイドの手配を予定していない自然海岸等に関心のある観光客
・ 死亡・行方不明者のうち 7 割が 50 歳以上	・ 50 歳以上の観光客 ・ 基礎疾患、体調に不安のある方
・ スノーケリング（41%）、ダイビング（29%）、遊泳（17%）の事故が多い	・ スノーケリング、ダイビング、遊泳を予定する観光客

※水難事故の詳細は本報告書の 6 章を参考のこと。

イ. 周知啓発の主なメッセージ

本業務の周知啓発では「沖縄の海を安全に楽しむために」として、「ライフジャケットの着用」「体調不良の際の注意」「海水浴場やマリンスポーツ事業者の利用推奨」を主要メッセージとして訴求した。また、圏域によっては「監視員等のいる海水浴場」が少ないエリアもあるため、適宜修正し発信した。

沖縄の海を安全に楽しむために

心得 01 **ライフジャケットを着用しよう!**

心得 02 **体調不良の際は、海に入るのを控えましょう!**

心得 03 **海水浴場やマリンスポーツ事業者を利用して楽しもう!**

マル優事業者を利用しよう! マル優事業者は、安全対策基準に適合しているとして沖縄県公安委員会から指定された事業者です。

おぼれた人を見つけたときの対処法
おぼれている人を見かけたら、近くにいる監視員やライフセーバー、まわりの人などに助けを求めてください。また、緊急連絡先に電話をかけて救助を要請しましょう。

●海上保安庁 (緊急連絡先) **Tel 118**
●警察署 **Tel 110**
●消防署 (救急車) **Tel 119**
●聴覚や言語に障がいを持つ方のための緊急通報サービス **NET 118** 活用

危険な場所をチェック
おきなわマリンスーフティマップ
沖縄県のビーチごとの危険情報や過去の水難事故の情報を提供しています。安全なビーチの選定や注意事項の確認にお役立てください。

海を安全に楽しむための情報サイト
おきなわマリンスーフティポータル
沖縄の海を安全に楽しむための心得やレジャーごとの確認事項、もしものときの対応などを詳しくまとめています。

図 10 周知啓発のメッセージ例（ポスター）

ウ. 発信した海の安全啓発ツール

本業務にて使用した海の安全啓発ツールを以下に示す。令和5年度までに作成・使用してきたツールを水難事故の分析や地域の実情などを踏まえながら適宜改善しながら活用してきた。

各種ツールは「おきなわマリンセーフティポータル」にQRコードやリンクの導線を設置した。

表 4 発信した海の安全啓発ツール

啓発ツール	内 容
1) ポータルサイト「おきなわマリンセーフティ」	・安全に海を楽しむための知識や「おきなわマリンセーフティマップ」の導線を設置。
2) ハザードマップ「おきなわマリンセーフティマップ」	・沖縄県内の監視員等のいない自然海岸を含む約400か所の危険情報等を発信。
3) 特設クイズサイト「クイズに答えて沖縄の海を安全に楽しもう」	・主体的に沖縄の海を楽しむための方法を学ぶことを目的としてクイズ形式に実施。
4) LINE アプリ「おきなわマリンセーフティ」	・チャット形式にて海の安全情報等を発信することを目的としたLINE アプリ。
5) Instagram「公式 沖縄ライフセービング協会」	・日々巡回している沖縄ライフセービング協会による海の状態やノウハウを発信。
6) 動画「美ら海あんぜんマルバツクイZOO」	・クイズを動画形式にて発信。飛行機内などにて放映。
7) ポスター	・観光施設等での掲示を目的として、A2やA1サイズにてポスターを作成。
8) リーフレット	・巡回時の配布や観光施設等での配架を目的としてA4サイズ3つ折りにて制作。
9) カード	・観光施設等での設置を目的として名刺サイズのカードを制作した。
10) ハンドバック・タオル	・那覇空港での事故防止キャンペーンを目的として制作した。



図 11 発信した周知啓発ツール

1) ポータルサイト「おきなわマリンセーフティ」 【継続・更新】

観光客向けに沖縄の海の危険性や安全に楽しむための知識・ノウハウが学べるコンテンツや「おきなわマリンセーフティマップ」等の各種ツールを集約したポータルサイトである。

令和4年度に本業務にて構築し、令和6年度8月に回遊性を向上させるため、リニューアルを行った。

リニューアルの内容については、「おきなわマリンセーフティポータルの改善」にて記載している。ポータルサイトの構成は以下のとおり。

表 5 ポータルサイト「おきなわマリンセーフティ」概要

目的	<ul style="list-style-type: none">・リーフレットやポスター、各種広告を通じて最終的に本サイトに流入し、詳細な海の安全の楽しみ方を学ぶツールとして作成した。・また、「おきなわマリンセーフティマップ」や公式 LINE アプリ等の各ツールへの導線も設置している。
周知方法	<ul style="list-style-type: none">・WEB 広告やリーフレット、ポスターに設置した導線により流入。
形式	<ul style="list-style-type: none">・WEB サイト
多言語言語	<ul style="list-style-type: none">・英語、韓国語、繁体字に対応している。 ※繁体字、韓国語は今年度事業にて作成した。
表示回数	<ul style="list-style-type: none">・7.2 万回
実施時期	<ul style="list-style-type: none">・令和6年4月より閲覧可能 ※令和6年8月にリニューアルを実施
主な掲載内容	(次頁のサイト構成にて記載)

表 6 ポータルサイト「おきなわマリンセーフティポータル」のサイト構成（リニューアル後）

① トップページ	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に楽しむための啓発メッセージや必要なツールへの導線を設置 <p>「沖縄の海を安全に楽しむために」 「海の天気は変わりやすい？ おきなわマリンセーフティマップ」 「ライフジャケットは海のシートベルト」 「マリンレジャーショップの正しい選び方」 「そのビーチ本当に大丈夫？」 など</p>
② お 知 ら せ (topics)	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせを適宜更新
③ 重点ターゲット へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の多い「スノーケリング」「ダイビング」に対してメッセージを周知。その他、「SUP」、「子どもとの海水浴」をトピックとして掲載。 ・以下にメッセージを掲載する。 <ターゲットごとのメッセージ> <ul style="list-style-type: none"> ❖ライフジャケットが命を守る、事故が一番多いスノーケル ❖無理せず楽しむダイビング ❖風に弱いSUPで注意すること ❖親は子どものライフセーバー 子どもと楽しむ海水浴
④ ツールの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・「おきなわマリンセーフティマップ」や「公式LINE」など必要なツールの導線および使い方を紹介。
⑤ 海で遊ぶその前に	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビーチにクラゲネットはある？」 ・「ライフジャケットは命綱」 ・「ひとりでは行動しないで」 など
⑥ 動画 (Movie)	<ul style="list-style-type: none"> ・本業務にて作成した動画を作成 <ul style="list-style-type: none"> ❖美ら海あんぜんマルバツクイ Z00 ❖沖縄県ライフセービング協会の Instagram 動画 など
⑦ 関係者バナー	<ul style="list-style-type: none"> ・「マリンレジャーショップの正しい選び方」 ・海上保安庁の各サイト

①ポータルサイトのトップページの様子



図 12 沖縄の海を安全に楽しむために



図 13 海の天気は変わりやすい?今日の波と風をチェック



図 14 マリンレジャーショップの正しい選び方



図 15 ライフジャケットは海のシートベルト



図 16 そのビーチ本当に安全?

②ポータルサイトのお知らせの様子



図 17 お知らせ

③ポータルサイトに掲載していた重点ターゲットへのメッセージ



ライフジャケットが命を守る
事故が一番多いスノーケル

実は事故がいっぱい多いスノーケル。簡単に遊べるマリンスポーツのように思われますが、命を守る対策が必要です。スノーケルをする際には、マスク、フィン、スノーケル、そしてライフジャケットの「4点セット」を必ず使用するようにしてください。また、万が一のため单独行動は避け、複数での行動を心がけましょう。

海での体調不良は命とり
無理せず楽しむダイビング

沖縄の美しい海でカラフルな熱帯魚やサンゴを見ることが出来るダイビングは、人気のマリンスポーツです。初心者やシニアでも楽しむことができますが、水中での活動であるため常に危険と隣り合わせです。ダイビングを安全に楽しむためには、自分の体調が万全であることや天候や海況に変化がないか確認することが必要で、決して無理をしないことが大切です。




流された時の対策を忘れずに
風に弱いSUPで注意すること

SUPは特に風に影響を受けやすく、その風程度（風速4m程度）でも流されてしまいます。万一流された場合に備えて、ライフジャケットを必ず装着し、避難手段を確保しておくことが欠かせません。スマートフォンの位置情報をONにして、防水バッグなどに入れて携帯するようにしましょう。

親は子どものライフセーバー
子供と楽しむ海水浴

小さなお子さんが、保護者がちょっと目を離したすきに溺れてしまう事故が多く見られます。「親はお子さんのライフセーバー」です。常に見守るようにしましょう。ライフジャケットも着用しておくことで安心です。また子どもは大人に比べて海中待たなりやすいので、水分補給をしっかりとできるように準備しておきましょう。



図 18 事故の多いターゲットへの訴求

④ポータルサイトにおけるツールの紹介



図 19 おきなわマリンセーフティマップの紹介



図 20 LINE 公式アカウントの紹介

⑤ポータルサイトにて掲載している海で遊ぶその前に



図 21 海で遊ぶその前に

⑥ポータルサイトに掲載している動画



図 22 動画の掲載

⑦関係者バナー

